



図書館だより



2023年
読書週間号②

秋草学園高等学校 図書館

今年も気づけば残りあと2ヶ月となりました。まだ1年を振り返るのには早いですが、ここで今年立てた自分の目標を思い出し、達成度を確認してみるといいかもしれませんね。順調に目標へ向かって進んでいる人も、のんびりしすぎて少ししか進めていなかった人もよい年越しができるようあと2ヶ月頑張りましょう！さて、この時期は紅葉を眺めながら散策したり、秋の味覚を味わいに出かけたりするのが楽しい季節です。秋を色々な角度から満喫しながら過ごしてください。読書の秋もどうぞお忘れなく。

読書週間後半もたくさんの本と出会おう



“私のペースで、しおりは進む”を標語に始まった今年の読書週間もあっという間に後半へと突入しました。みなさん、この期間に本を手取る機会はできたでしょうか。前号では短編集を中心に本の紹介をしましたが、今回は色々な長編ものをおすすめしていきたいと思えます。

短編でたくさんの物語を楽しむのもよし、1つの物語にじっくりハマってみるのもよし、自分に合ったペースを見つけて読書時間を過ごしてください。

1冊を自分のペースで楽しむ

B913.6-サ『女子的生活』

坂木 司 || 著 新潮社



憧れのキラキラ女子的生活を送りながら働くみき。だけど、その生活は甘くはない！マウントをとられ、偏見をもたれ、心無いことを言われても、みきは負けたりしない。どんな相手も痛快にやりこめ、自分の道を貫く。同居人 後藤の存在もいい味を出しているのご注目。

913.6-入『恋とそれとあと全部』

住野 よる || 著 文藝春秋



サブレ（鳩代司）に片思い中のめえめえ（瀬戸洋平）だが、2人の距離は友だちどまり。そこにチャンスが訪れる。祖父の家に行くサブレに誘われ、一緒に4日間を過ごすことに。しかし、この旅には恋とはかけ離れたある目的があった。彼らの関係に何か変化は起きるのか。

長編をじっくりゆっくり楽しむ

B913.6-ツ『子どもたちは夜と遊ぶ』上・下

辻村 深月 || 著 講談社

大学受験を控える高校3年生の少年が行方不明になった。それは「i」の手による残酷なゲームの始まりだった。D大学に通う狐塚、月子、浅葱はこの連続するゲームに、命を狙われる者、犯人の正体に気づく者、「i」と共に犯罪に手を染める者、とそれぞれの立場で巻き込まれていく。「i」とは何者なのか、その目的は何なのか。真実に近づくほどに闇は深くなっていく。ゲームが終わりを迎える時、彼らに待っているのは衝撃の結末だった。

933-ウ『われら闇より天を見る』

クリス・ウィタカー || 著 早川書房

2023年本屋大賞翻訳小説部門第1位の作品。過酷な境遇の中、幼い弟を守りながら強く生きる少女ダッチェス。難病を抱えながらダッチェスを見守る警察署長ワーク。彼らを繋ぐのは30年前の不幸な事故だった。事故が人々の心に残した傷は深く、まだ生まれていなかったダッチェスにも多くのものを背負わせていた。そして今また、新たな悲劇が起きてしまう。13歳の少女が運命に負けず、逞しく生きる姿から目が離せなくなる。

933-ル 『ライオンと魔女』くナルニア国ものがたり』

C.S.ルイス || 著 岩波書店

全7巻のこのシリーズは、80年代に翻訳され長く親しまれ、3巻までは映画にもなりました。ものいう獣に木や水の精、魔女のいるナルニア国で、ペベンシー4兄妹の冒険と戦いが繰り広げられます。そのワクワクする物語の新訳が完結しました。今までの瀬田貞二の訳もよいのですが河合祥一郎の訳も今ときになっていて、読みやすいです。映画化が再開するとの話もありますし、これからの盛り上がりを楽しみます。

司書の今月はこの本読みました

42年ぶりに続巻ができました。『続 窓ぎわのトットちゃん』(914.6-ク 黒柳徹子 講談社)ともえ学園で校長先生のもと楽しく明るく元気に成長していたトットちゃんこと黒柳徹子さんは、先生にいわれた「君は、本当は、いい子なんだよ」という言葉を胸に、疎開していった前巻。その後のつらい戦争の時期を乗り越え、やがてNHKからテレビ女優第一号となるまでがこの巻で語られます。あら、どうやらさらに続きそうな予感がします。人と違って「あなたのそのしゃべり方がいいんです。それがあなたの個性で、僕たちに必要なんです」心に響きます【鈴木】